

平成18年
1月号

250円

やすらぎ

人と人をつなぐ月刊総合誌



エゴイズム

ムラーカバ(自己監督)

舞台制作・通訳TAMAKIさんへのインタビュー

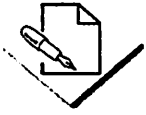
永遠に愛

『チキ・チキ・バン・バン』

動物たちの感覚の奇跡

「ちょっと大人になる？」物語、2冊

「あけましておめでとう」ございます。新しい年の二月に入りまして、元旦以降初めての祝日が成人の日です。「国民の祝日に関する法律」によれば、成人の日の意味は「大人になったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を祝い励ます」だそうです。ですが、成人の日に成人式をしたからといって大人になるわけでもなく、式自体は「同窓会」のようなものになってしまっています。p.18



「やすらぎ」読者の皆さま、明けましておめでとうございます。昨年を振り返って気持ちを新たに抱負を立てられた方も多いことでしょう。確実に過ぎ行く時間を無為に逃してしまわないよう、自戒を込めつつ皆さまにとっても実り多き年となるようお祈り申し上げます。

さて、もうすぐ成人式がやってきます。成人式自体の意味は薄れてきているように思えますが、各地の様子をニュースで見たり晴れ着姿の新成人を見掛けたりすると、成人とは何か、大人とは何かと考えさせられるものです。一般的に現代の日本では、成人と呼ばれる年齢に近付いた若者たちの間で大人になることを積極的に捉える人は少数ではないかと思えます。面倒臭いことも多いし何につけ束縛が増え、とにかく魅力が感じられないというのが実感ではないでしょうか。

小さな子供は年長の子供に憧れながら成長します。自分にはできないことがたくさんできる姿にすごいと思い、自分もそうなりたいと願いながら様々な事柄に挑戦していくのです。そういう子供の姿は本当に輝いています。人間は何歳になってもそうした素敵なお手本、モデルが必要なのではないのでしょうか。自分自身、歳をとってきたのでなんとなく大人であることを引き受けた程度のものですが、生きている以上、そして歳をとっていく以上、人間として成長し続けるための努力を惜しまないようにせねばと思うのです。



編集部より	2
エゴイズム	3
祈りのある毎日へ	5
ナン	5
ムラーカバ（自己監督）	6
舞台制作・通訳 TAMAKI さんへのインタビュー	8
遠い未来についての言及	10
ご病気の方々へのメッセージ	12
成長した私	14
永遠に愛	15
『チキ・チキ・バン・バン』	18
動物たちの感覚の奇跡	20
アンネより	25
「ちょっと大人になる？」物語、2冊	26





人に与えられた自負心というものは、何よりも重要な真実に気づくために贈られた、聖なる贈物である。その務めを終えたらすぐに、石にぶつけて砕いてしまわなければならない、贈物である。そうしなかった場合、それは膨張し、その持ち主を飲み込んでしまう悪意に満ちた悪魔ようになる。人はそれによって、偉大な創造者を、その力を、英知と御意志の無限さを、不足や欠点といったものはそのお方にはあてはまらないことを理解する。その心に生じた愛情の炎で自負心を溶かしてしまう。ただ偉大な創造主の存在のみを見つめ、そのお方と共に熟考し、学び、休息する。

いつでもエゴイストであってはいけない。それは主を知らず、無限である道を進んでおらず、視界が固定され、同じところで立ち止まっていることを意味する。いつでも自己中心的に物事を考える人、いつでもエゴと共にある人、求めるものをその『エゴ』の暗い雰囲気の中に探そうとする人たちは、何年も何年もかけて野超え山超え進んでいるつもりでも、針ほどの長さすら前進できてはいないのだ。

何か成し遂げられた時、それが最も困難な仕事であったとしても、エゴによってそれが行なわれたのであればそれは決して有益なものとはならず、アッラーの御前においては承認されない。自らを乗り越えることができず、エゴに斬りつけバラバラにすることができず、理解が限られている人たちがさらなる前進をしようとすることは一つの慰め、ごまかしに過ぎない。その人たちの献身も、一つの思慮不足にすぎない。



自己中心主義は悪魔的な特性であり、それに取り付かれた人は、悪魔の干渉を招くことは疑うべくもない。悪魔の弁解や庇護ですら、恐ろしく響くエゴのリズムである。預言者アダムは、その視界が闇に包まれた一瞬に、涙によって視野を新たにし、心の火を消そうと努めた。それに対し、イブリースは、全ての言葉がうぬぼれと意地を、全ての表現が恥知らずな特性を露にしていた。

エゴイズムには、その知識を源とするもの、財力や能力から起こってくるもの、その知恵によって、その美しさによって膨張するもの、などいくつもの種類がある。これらのうちどれ一つも、人間の本質的な所有物ではないのであり、だからそれらを主張することは、それらの真の所有者の怒りの要因となり、それを招くものとなる。

人の内面世界を影響下においたエゴは、集団のエゴと一体となった時、完全に巨大化し、攻撃的な

怪物のようになる。このようなもはや凶暴化した精神によっては、最も価値のあるものでさえ真っ黒な雲と化し、周囲に砲弾や爆弾を降り注ぎ始める。このような人々の手において、学問は偽りの輝きとなり、能力は見せつけや見せびらかしのための要素となり、心はムカデの巣となり、美しさは周囲に辛らつさを撒き散らす悲しみの一葉となり、知性は他人をからかう不幸な道化師のようなものとなる。

ずっと以前から、物質主義者の哲学はエゴイズムを、預言者という存在は真実と事実を体現してきた。前者においては疑念やとまどい、ごまかし、暴力や憎悪があり、氷山がお互いにぶつかり合うように、お互いが恐ろしい衝突を起こし、砕け散ってきた。後者においては、輝きと心の安らぎがあり、お互いの援護に駆けつけ、お互いを支えあってきたのだ。

あらゆる機会に自分のことを周囲に語ろうとする精神のあり方は、その人に何らかの不足と、劣等感があることを示している。このような人たちは、よい精神教育によって、所有物をその真の持ち主に捧げられるようになるまで、その状態を続ける。彼らのなすことはどれも見せかけであり、彼らの語ることには自己中心的であり、謙虚さを示すような行動は皆、偽善か、自分を他人に語りたいがための投資である。なんと気の毒なことだろうか！

エゴイストには真の友はいないし、その心に真の安らぎもない。





美しさを明らかになさるお方よ
 みにくさを覆われるお方よ
 罪人の清算を猶予なさるお方よ
 悪徳をあらわになさらないお方よ
 偉大で、赦されるお方よ
 罰せず罪をよく赦されるお方よ
 広く広く赦されるお方よ
 恵み深く手をひろげるお方よ
 囁く者達を手助けなさる友よ
 不平をのべる者達の最後の拠り所よ

あなたは完全無欠なお方、あなたに栄光あれ、あなたの他に真の神は存在しません。私達を地獄の炎からお助け下さい。¹



ナン

材料A：強力粉 600g イースト 10g 砂糖 大1 塩 小1
 材料B：ぬるま湯 300cc 卵 1個 ヨーグルト 大3

作り方： 1.材料Aを合わせてふるいにかける
 2.1に材料Bを加え、10分間ほどこねる
 3.45～60分発酵させる。(2倍程度に膨らむまで)ぬれふきんをかぶせる)
 4.ガス抜きをした後、6等分してぬれふきんをかぶせ10分ほど休ませる
 *生地を丸める時、外側がなめらかになるようにまとめる。綿棒で2ミリ程度の厚さにのぼし、温めたフライパンに油を引いて両面を焼いて出来上がり

¹ 偉大なる鎖帷子（ジャウシャヌルカビール）には、祈願（きがん）、唱念、救いを望むことが記されています。それは、真の主アッラーの多くの御名を知らしめ、それらの御名と共にアッラーへ祈願し、近づく方法を示す大変貴重な意味深い書です。鎖帷子は戦いの時、身を攻撃から守るために着ます。人間の靈魂に授けられた善美を守るためには、偉大なる鎖帷子のような精神的鎧が必要です。本来、偉大なる鎖帷子（ジャウシャヌカビール）が精神的世界のみではなく、物理的世界においても守りとなると伝えられています。



ムラーカバ(自己監督)

ムラーカバは監視、監督、コントロール、(アッラーに)コントロールされているという意識の中で生きることだと定義されています。スーフィーたちはこれをさらに、アッラーだけに自分の心の焦点を合わせ、アッラー以外のものに対する執着をすべて捨て、世俗的な禁じられているものすべてを拒否し、アッラーはすべてのことをご存じだという確信の下に行動し、アッラーのご命令通りに生きることと捉えています。

またムラーカバは、アッラーの望まれることなら何でも守ろうとすることや、確固たる誠実さとアッラーが常に監視されているという意識の中で人生を送ることだとも解釈できます。『あなたが何事に従事していても、またクルアーンのどの部分を読誦していても、またあなたがたがどんな行いをしているようにも、あなたがたがそれにうち込んでいる限り、われは必ずあなたがたのための立証者である。(10:61)』と聖クルアーンでも述べられているように、全能のアッラーは自分が行うこと、話すこと、知っていること、考えていることすべてをご存じであるとしもべが思うと、このような態度は可能になります。

もしムラーカバが、アッラーのお怒りを買うことやアッラーから自分を遠ざけてしまうことすべてに対して自分の心を閉じ、アッラーからもたらされる輝きや贈り物、好意を受け取るために自分の精神を開くことであるならば、私たちは閉じるべきを閉じ開くべきを開かなければなりません。ムラーカバのための最初のステップは、アッラーが素晴らしいと定められたものを素晴らしいと受け入れ、意味がないと定められたものを意味がないと受け入れることであり、自分自身の意志や欲望よりもアッラーのそれを優先することです。アッラーのお恵みの深さを考えることはアッラーに対する愛情を増やし強くし、アッラーを恐れ畏怖することは罪や現世的な生活に対する欲求を失わせません。ムラーカバによって人は、たとえ独りきりのときにもアッラーが常に監視されているという意識のために、崇拜に有害なものを捨て、自分の思考や行為、意志というものを純粋に保とうとするようになるのです。

ムラーカバは道案内なしにアッラーに辿り着くための最も重要で直接的な道の一つです。これは預言者の後を継ごうとする人々が、アッラーのメッセージを人々に伝えるという預言者の使命を聖なる力によらずに継承するというに似ています。このような旅人たちは自分の無力さや貧しさを自覚して、いつでもどこでもアッラーに向かうことができ、必要に応じてアッラーと「ふたりきりになる」ことができます。彼らは自然を見るとアッラーが常に監視されているということを感じるため、あらゆるアッラー以外のものを避け、アッラーに関係のない音や声は聞こえず、アッラーの美しさと慈悲深さを讃え、アッラーに関係のない話をするには意味がないと考えます。

実際、自分の目が自分にアッラーが見ていることを思い出させないとしたら、自分の耳が自分にアッラーが聞いていることを思い出させないとしたら、自分の舌が自分にアッラーのお言葉を思い出させないとしたら、これらの器官は単なる肉の塊として以上のどんな使われ方ができるでしょうか。ルーミーは次のように述べています。

全能のアッラーは、あなたがたに悪に対して警告するため御自身をすべてを見る存在として描写され、あなたがたに悪いことは何も言わないように忠告するため御自身をすべてを聞く存在として描写され、あなたがたにアッラーはあなたを知っていると教え、そして墮落した考えに気を付けるように忠告される

ため御自身をすべてを知る存在として描写された。

ルーミーは自己監視を悪い感情や思考、情熱、行為からの防御壁として捉え、それがアッラーに与えられた権利に対して注意深くあるための最も安全な方法であると考えました。

自己監視における最初のステップは、アッラーのご意志に対して進んで服従することであり、アッラーはあらゆるところに存在され私たちの思考、意志、行為のすべてをご存じであるという確信における願望です。『アッラーは凡てのことを監視なされる。(33:52)』第2のステップは平安な心でアッラーに向かい、アッラーからの贈り物と祝福が自分の心の中に流れ入って来ることを我慢強く期待することです。

これは物理的精神的に先導者に従うことや先導者との関係、あるいはアッラーの美名を定期的に唱えることを必要としませんが、もし先導者に従いたいもしくはシャリーアの通りにアッラーの美名を定期的に唱えたいと思うのであれば、それは一層良いでしょう。アッラーの道を行く者が、第1ステップにあっても第2ステップにあっても、預言者のハディース「完璧な善行というのは、あたかもアッラーが実際に見えるかのように崇拜することである。あなたにアッラーが見えないとしても、確かにアッラーにはあなたが見えているのだから。」に従って行動することができ、また、常にアッラーの前では自分自身が無力で貧しく助けを必要としていると考え、アッラーが唯一依存すべき存在であり救済してくださる存在であるということを感じている限り、自己監視の道においてその者は安全に旅をすることができ、逸脱する恐れはないでしょう。いずれ、このような道を行く者は心の平安を得、唯一の神アッラーの贈り物に対して心を開き続けアッラーから輝きを受け取ることができるようになるでしょう。

自己監視の仕組みの中で最も重要なものの一つはムハーサバ（自己批判）です。この自己コントロールの方法によって人は自分の失敗やその理由を知ることができるため、心の中の真実を見つけることができるようになり、それを行為に反映させることができるからです。このことにおいて、「アッラーに讃えあれ。私を見、私の所在を知り、私の言葉をお聞きになる御方に。」の意味と謎が明らかになるのです。このような人々はアッラーをご存じであることと望まれることが、自分を保っていることを知っています。そして、どこにいようと何をしようとしていようと、アッラーのお望みになる通りに行動しアッラーのお喜びだけを得ようとしているのです。





今月は、実家がカフェギャラリーを営んでいた影響でアート・ジュエリー等に興味を持ちイギリスへ留学。アート・ジュエリー語学を学び現在舞台制作・通訳として活躍している TAMAKI さんにインタビューしました。

Q 今の仕事は何故選ばれたのですか？

A イギリスの講師による青少年向けのミュージカル・ワークショップの通訳を頼まれたのがきっかけで、今の仕事をしています。このミュージカル・ワークショップは、毎年やっているのですが、スキル重視の日本の指導方法とは異なり、表現する事の楽しさ、素晴らしさなど参加者を根本から導いてあげられる内容で、何ものにも代え難い素晴らしいプロジェクトです。

Q 舞台制作の会社は色々あると思いますが何故今の会社に？

A 今の会社は無形文化遺産（伝統・民族芸能など）を保存する世界的な某機関の日本支部の業務をやっているのです。イギリスに住んで居た頃よくミュージカルを見ていましたし、実家のカフェで、パフォーマンス等も行われていた事もあり、色々な国の芸術・文化に興味があり、今の仕事をしています。以前は、ジュエリー一つに絞っていましたが、色々な事を経験し、今ではさまざまな事をやりたいと思うようになりました。2004年には日中平和友好条約締結25周年を記念して、シルクロードから伝わった古代の楽器を復元して演奏するオーケストラのコンサートを中国で行いました。最近では愛知 EXPO で世界平和を祈るというテーマで宗教の枠を越えフランスのグレゴリオ聖歌、アメリカのゴスペル、ウズベキスタンのイスラム音楽、日本の高野山の声明が合同出演したコンサートを行い大成功を収めました。

Q TAMAKI さんの主な役割は何ですか？

A チケットセールス・広報・演出家やアーティスト等のお世話・通訳・スケジュール調整等、事業が決まってから終わるまでの全てに関わっています。

Q 日本の事業と海外の事業の違いはありますか？

A イギリス等では、演出家も俳優もアーティストも皆対等に意見を交わし演出家はちゃんと耳を傾け、全員のちからでひとつの舞台を作り上げるという感がありますが、日本では演出家の言うことが絶対で俳優たちが演出家に意見を言う所はあまり見られません。

Q この仕事の魅力は何ですか？

A 世界中の人達と仕事をするので、文化の違いなどからみんな色々とぶつかり、難航することもあります。それぞれがその事業をとおして大きな何かを得て感銘を受けたことが分かり、一緒に仕事をして本当に良かったと言われた時はとてもうれしいです。地方公演等では、一般のお宅に出演者達がホームステイする事があるのですが、特にインドネシアなどムスリムの場合、テロのニュースの事もあるので、受け入れる側・ホームステイする側どちらもすごく心配になります。しかし、公演終了後にはお互いさまざまなことを直に理解し絆が出来、一緒に過ごせて良かったという言葉を聞くと、市民単位での交流が出来たことが嬉しくなります。人との交流、文化、慣習、お国柄の違い。国、民族を超えての相互理解に芸術は重要な役割を果たし、最後には平和にもつながることを願っています。この仕事をする度に芸術は大切だと思います。





遠い未来についての言及

4. キリスト教の復古

預言者ムハンマドは、キリスト教が本来の姿に戻り、イスラームの精神と同調するだろうと言われておられる²。その時、アッラーを否定する者が、信仰する者を支配しており、アッラーの援助を得る者はその援助によってムスリムたちの不幸な歴史を変え、否定する者たちの鼻をへし折ることになるだろう。その戦いの際、地上は死体で覆い尽くされ、その死体を驚が運ぶだろう。

5. 農作物における進化

農業においてある進化が見られるであろう。それによって、20人かかってやっと食べきれようようなザクロができるだろう。このザクロの皮の下で一人の人間なら日光を避けて陰で休むことができるようになるだろう。また麦も、同じように巨大化するであろう。

これらはまだ我々が体験してはいないことである。しかし将来必ず実現するであろうことである。これらは実現し、人々は預言者ムハンマドに対して「あなたは正しいことを言った」と言い、預言者に対する結びつきをいっそう強くするであろう。なぜならこの長い歳月が預言者ムハンマドの正しさを示し、このお方が言われたことは必ず実現してきたからである。³

6. 現在における不公平さ

我々はここでまた、我々のこの時代に対してなされた言及に戻ろう。預言者ムハンマドは言われた。「審判の日が近づくと、挨拶において自分自身を紹介することが多く行なわれ、また商取引が人々の関心を引くようになる。妻は夫の商売を手伝う。親戚関係が失われる。偽りの証言がなされ、正しいことに関しては誰も証言をしたがらない。ペンの力が増す」⁴

このハディースは、何の解釈も必要としないほど、今日のありのままの姿を指し示している。

商業の重要が高まる。何百万も、何億もの資産が投入される。単に広告のためにさえ、何百万も、何十億もの金が使われる。そして多くの場合、女性がその宣伝に使われる。あるいは女性自身が商取引の世界に生き、市場や見本市、展示会などで働く。ただ、私のこれらの言葉から、私が商売に対して反感を持っているというような誤解はしないでほしい。私はただ、預言者ムハンマドのもたらされた知らせが正しかったということを述べたいだけである。

² この話題を指すハディースのために Muslim Iman 244-247 を参照

³ Muslim, Fitan 110; Tirmidhi, Fitan 59; Ibn Hanbal, Musnad 4/182

親戚関係がなくなる。父母や近い親戚たちの権利は踏みにじられる。親が歳を取って役に立たないようになり、まさにやさしさやよく構ってもらうことが必要な時期になると、老人ホームなどに送られる。そして彼らは、自分の家では得られなくなった平安をそこで見つけなくてはならないのである。アッラーは、彼御自身の次に大きな権利を父母に与えるように命じられているが⁵、この命令は聞き入れられなくなる。非常に横柄な振る舞いが見られるようになるだろう。これらのことが今日の状態に当てはまっているかどうか、あなた自身で考えてみてほしい。

ペンが力を得るであろう。印刷所は忙しく稼働し、新聞、雑誌や本を印刷する。出版社は休むことなく本を出版する。図書館は何千冊もの本で満ちるであろう。書くことが一つの職業となり、その需要が高まる。

偽りの証言がなされ、周囲を混乱させる。正しいことを証言することは嫌がられる。社会はあたかも嘘の生産現場となり、人生は嘘や裏切り、騙し合いの場となる。

何もかもが余りにも明らかな形で述べられているため、これらが本当に預言者ムハンマドによって述べられたことなのかと疑いを持つ者もいるかもしれない。

その答えは簡単なものである。これらは少なくとも13世紀前に出された本にすでに書かれていることである。もしこれらが預言者ムハンマドの言葉でなければ、誰の言葉であり得るだろうか。これが誰か別の人の言葉であるなら、その人も、預言者ムハンマドと同じくらいの光に満ちた視野を持っている必要がある。そのような人が存在したであろうか？ いや、これらは預言者ムハンマドのなされた言及なのである。今日実現しているこれらのハディースは、預言者ムハンマドの言葉がどれほど正しいかを明らかにしているのである。



¹ Ibn Hanbal, Musnad, 1/407,408; Hakim Mustadrak 4/98, 446

² 参照 聖クルアーン 雌牛章 2/83; 婦人章 4/36; 夜の旅章 17/23

ご病気の方々へのメッセージ

第13の治療薬

病に不平を言っている哀れな患い人よ。病は一部の人にとって、大切な宝である。貴重な、神からの贈り物である。病気の人には誰でも、自らの病をそのようにとらえることができる。

寿命は、知ることができないものである。神は人を思い通りにならないことに対して失望することや、自我のとりこになり神の命令を忘れることから救うために、また恐れと希望の中間にいて、この世とあの世を守ることができる状態に保つために、その英知によって、寿命を秘められたものとされた。最期の時はいつでもやってくる可能性があるのである。もし人がのんきに構えていれば、あの世での生に大きな害を与えることになってしまい得る。病はこののんきを蹴散らし、あの世を考えさせる。死を思い起こさせる。このようにして備えがされるのである。20年かかって到達できなかった段階に、20日で到達できたりすることもある。

例を挙げよう。私の友人に、今は故人となったが、二人の若者がいた。この二人は無筆であったにも関わらず、その誠実さと信仰の奉仕において、生徒達の中でも最も優れていた。私はいつも驚きをもって彼らを眺めていたものだった。彼らが死んだ後で私は理解したのだ。二人にはそれぞれ重大な病があった。その病が導きとなって、のんきで義務を怠る若者としてではなく、罪から身を守り、価値のある奉仕を行い、あの世にとって有益な態度で生きたのであった。インシャッラー（神がお望みならば）、2年間の闘病が、永遠の生における何百年もの幸福をもたらしたことであろう。私が彼らの回復のために行ったドゥアーは、今になって分かったことだが、この世の健康という意味では、呪いのようなものであったのだ。インシャッラー、私のあのドゥアーが、彼らのあの世での健康のために受け入れられたことを願っている。

この二人は、10年間続く努力によって得られるようなものを獲得したのだと私は確信している。もし二人が、一部の若者のように、健康さと若さを過信して不注意さや快樂にはまってしまっていたとしたら、死が彼らを、罪にまみれたままとらえていたとしたら……。彼らの墓は光の宝庫ではなく、さそりや蛇の巣になっていたことだろう。

病にはこのような効能がある。だから不平を言うのではなく、神への信頼と忍耐と共に神に感謝し、神の慈悲を信頼するべきなのである。

第14の治療薬

目が見えなくなってしまった患い人よ。信仰する者の目をふさいだ覆いの下に、どのような光、そして心の目が存在するのかをあなたが知れば、あなたは「慈悲深い神に無限の感謝を」ということである

う。この話を説明するために、次の出来事を語ってあげよう。

私に8年間の間完全な誠実さをもって奉仕してくれたある人物の、おばに当たる人の目が見えなくなった。この女性は私のことを実際の何倍も優れた人だと買い被っておられたようであった。私にモスクの入り口のところで声をかけて「私の目が見えるようになるようにドゥアーしてください」と言われた。私も、この素晴らしい女性のために、彼女の信心深さゆえにその目が回復するようにと祈ったのであった。二日後、別の地方から眼科医がやってきた。そして彼女の目が見えるようになったのである。

しかし40日後、彼女の目はこの世界に対して永遠に閉じられた。彼女は亡くなられたのである。私はおおいにショックを受けた。インシャラー、私のあのドゥアーは、あの世のために認められたと願いたい。そうでなければ、私のドゥアーは非常に誤った、呪いのようなものであったのだ。彼女の寿命は40日しか残っていなかったのである。40日後、彼女は亡くなられたのであった。

亡くなった彼女が、40日間その地方のもの悲しい風景をその年老いた目で見ると相当するものとして、墓場で、天国の庭園を4万日見られるだけのものを獲得したのであった。彼女の信仰心は強く、信仰への結びつきも強固なものであったからである。

そう、信仰する者の目がふさがれ、目が閉じられたまま墓に入れば、その状態に応じて、墓場の他の人々も尚、光の世界を見ることができると。この世で我々がいかに多くのものを見ていようと、目が見えない信者はそれらを見ることができない。墓場では、その目が見えない信者たちは、信心のうちにそこに行ったのであれば、墓場の他の人々よりもよく見ることができると。望遠鏡で見ているような形で、墓場において、その段階に応じて、天国の庭園を映画のように見ることができるとである。

このような、光に満ち、地面の下にいらながらも天国を見ることができると目は、目をふさいだ覆いの内側に、感謝と忍耐によって見出すことができるのだ。この覆いを取り払い、その目によってあなたに物を見させる眼科医が、全ての章句に神の英知を含む、聖クルアーンなのである。



江住 よしえ

成人式を迎えた頃には私は一人前の大人になったという実感こそありませんでしたが、それでも合法的にお酒が飲める年になりました。

二十歳になったからといって生活が一遍するでもなく、幼稚園、小学校、中学校、高校を卒業し、大学生になり、ここまで成長した。とお祝いされて満足といった感じでした。私が二十歳の頃には学生ということもあって、毎日が浮かれ気分で、将来のことを考えることはあっても、人生について考えるということはほとんどなかったように思います。あったとしても、一時的なもので、毎日毎日、じっくり考えることはありませんでした。そういったことを考えるよりは当時の「今」のことを考えることに集中していました。

信仰をもつ前と後で、自分は一人なので、信仰をもつ前の自分を完全否定はできませんが、それでも今後悔することは多々あります。日々を十分味わっていたと思い込んでいましたが、今思えばもっと大切に過ごせたなと思うこともあります。過去があつての今ですから、それもこれも神様が導いてくれた道の一つでした。

二十歳の時は家族にお祝いをしてもらってとっても幸せな時を迎えましたが、私にとっての人生の転機になったのが、やはり信仰です。やっと目が覚めたような、やっと大人になったような、そして現実を見たようなそんな気持ちでした。私が信仰をもったのが21歳の時ですが、二十歳の自分と、21歳の自分では人生に対する意識がまったく変わりました。大きな病気をしたでもなく、近くに死を経験したのでもなく人生について転機を迎えるとは自分でも考えませんでした。それも21歳という年齢は若さと、情熱と、野心をもっている年齢です。

タイトなジーンズを脱ぎ、夏には長袖をはおり、長いスカートをコーディネートするようになり、そしてスカーフもコーディネートするようになりました。鏡を見ると服装の変化で自分が落ち着いたようにも見えましたが、いつのまにか内面が変わっているのに気がきます。徐々にいろいろなことについて考えるようになっていったので、そしてあまりにも自然で、最初は自分が変わったことに自分でさえ感じることはありませんでしたが、明らかに人生に対する自分の意識が変わっていったのです。私を前から知る友人に久しぶりに会うと、私をそのまま受け入れてくれます。楽しく話しをしていると「変わっていないな」なんてお互い笑ったりします。それでも家に帰って礼拝をし、今日久しぶりに友達に会えたことに感謝し、そして友達の幸福を祈り、一日に感謝するというすばらしい時間が私にはできたのです。私が最初に学んだのは創造者としての神と、そして礼拝でした。はじめは形だけだった礼拝も、続けるとその効果は実行してすぐ感じられました。だから神様が大きく私に近づいてくれたのかなとその時感じました。信仰をもつことで日々成長する私ができることを感謝しています。



あなたの愛がどんな困難にも邪魔されませんように

あなたは既婚者かもしれないし、結婚を考えているところかもしれません。もしかすると何もかもすっかり思ったとおりのバラ色というわけではなかったかもしれません。最初は手に手を取りあって共に歩んだ綿の咲き乱れる小道にはその実、小石や棘があることに気づいたことでしょう。もしかしたら、あなたの足からは血が流れ、心は傷だらけになっているかもしれません。

夢から覚めたばかりの茫然自失な状態になってはいませんか？空の色があなたの想像通りではなかったり、石の固さに改めて驚いたりしていませんか？

なぜ手にしたハンカチを隠すのですか？あなたの瞳が赤く、潤んでいるのはなぜ？泣いているんですね。

わたしたちは誰でもみな悩みや不安など持たずにこの世に生まれます。万が一あなた自身が問題を抱えていたとしても、少なくともそんなことは露知らずなわけです。涙を流し苦悩を抱え込むのはいつでも母親であり父親のほうです。赤ん坊でいられる間は飲み食いし、笑ったり遊んだりしていればいいのですから。

年月の経過とともにだんだんと世界の様相は変化します。幼少時代になると子供っぽいごく小さな悩みを覚え始めます。年齢を重ねるほどに苦悩も大きくなっていきます。

希望で胸を膨らませて学校に通い始めます。勉強というものが巨大な難問となってあなたに襲い掛かってきます。バラ色の夢想の世界で家庭を築いたりしても、大空が頭上に落ちてきては嘆き悲しむ、なんてこともありえます。幸せな未来を夢見て就職しても、贅沢に満ちた日々など蜃気楼と化し、何年も「無」を追いかけまわすはめになりかねません。抱えきれないほどの借金や行き詰った経済状態にあえぐかもしれません。

あなたが子供なら、母親や父親が自分を理解してくれないことに不満を抱くでしょうし、あなたが母親か父親であれば、子供が十分に自分を尊敬し理解しないことを嘆くでしょう。あなたが少年や少女であれば、あなたのエゴは社会的・精神的諸問題に取り囲まれている状態でしょう。あるいは恋をして、日夜その虜となっているかもしれません。

家族を養っているとします。収入は平行線をたどる一方で支出は増えるばかり。どこをどう節約していいかもわかりません。時として詩人が詠ったように『これほどの苦悩ならば、人生がこれほどの重荷ならば…』とあって、生きることより死ぬことを切望するかもしれません。それはそうです、死ぬのは簡単なのですから。困難なのは生き続けることのほう。それでもあなたはこの困難な課題を全うしなければ

ならないのです。

あなたが若い女、もしくは若い男だとしたら、結婚したばかりかもしれません。毎日描いていたバラ色の夢が散っていき、暗雲に包囲されていることに気づくかもしれません。

誰かがあなたに悩みを打ち明けるかもしれません。自分のそれと比較して『わたしの悩みに比べたら、あなたの悩みなんて悩みのうちに入らない』と思うかもしれません。

確かにそれはそうでしょう。炎が焼くのは炎が落ちたその場所だけです。他人の悩みを矮小化することはできません。どんなに「最悪中の最悪があるとしても、まだましとって感謝して」みせても、人は皆自分の悩みの中心にいるのです。そもそも人間とは、何かに目をくれているときには、別の場所を見ていないのだから盲目だといえます。

時としてあなた自身、あるいは配偶者が、子供が、母親や父親が、難病と闘うようなこともあります。お金があっても治療法がないこともあれば、治療法はあってもそのためのお金を捻出できないことも。

いっぺんに苦難に襲われることもあります。病気、経済的困難、仕事上の悩み、精神的不安定などが次々と訪れることだってあります。このような困難な日々を思っ、わたしたちの祖先は『苦悩が苦悩の上にやってこないなら、わたしはその苦悩を苦悩とは呼ばない』と言ったのかもしれません。

そんな風にして何ヶ月、何年と過ごし、苦難を乗り越えて目標に向かって疾走しなければならないそのときに、諸々の困難があなたを捕らえるかもしれません。あなたは笑うことを忘れます。「元気？」という親友の呼びかけに微笑を浮かべて「元気だ」と答えるでしょう。少しも元気ではないのに。血の涙を流しているのに。創造主に文句はなくとも、あなたは不幸かもしれません。

それは、どこかで何かが必要なから、なのです。ちょうど、何かがあり余っているのと同じように。

招かれない客たる苦難だけでは足りないばかりに、あなたは人生に理想や希望、願望を持っているに違いありません。でも困難さがもたらす痛みや不安のせいで、理想を追いかけることすらできなくなるかもしれません。

あなたの未来は幸せなはずでした。幸せな家庭を築くはずだったし、いい教育を受けるはずだったし、お金をちゃんと儲けて、家だの車だのを買うはずだった。あれもこれも、実現するはずだった。

ところが、それらはもうあなたからはずっと遠くにあります。『人生のお楽しみなんてもう諦めた、ただもうこの苦しみを取り除かれればそれでいい』と、思い始めています。

ひとりぼっちで苦しみを味わい、心からの親友だと思っていた人はあなたの苦しみをただ聞いてくれるだけ。そもそも苦しみを打ち明けることすらあなたはしません。打ち明けたとしても、皆親身になってはくれません。苦しい日々でも横にいてくれる親友は数少ないものです。人は普通、権力と幸福の傍ら

を好みます。

今ここに書いたことは、決して抵抗とか不満とか絶望の表明ではないのです。問題を明らかにし、解決方法の模索なのです。ここで私が目指しているのはもちろんこれら一連の問題の解決策を提示してみせることです。

様々な人の千差万別な悩みに出会いました。天にまで届こうかというほどの、山ほどにあふれんばかりの才能が、その道を石ころごときに閉ざされたり、博学で知られる人がなかなか谷を越えることができない場面にも遭遇しました。逆風にあおられ多くの若者が流した涙を知っています。

たったひとりで苦しんでいるたくさんの人の涙を共有したいと思っています。苦しみを与えるものに対してではなく、解決できない点に抵抗していきたい。超えられない障害や解決できない問題はないと信じています。どんな苦しみにも薬があり、どんな借金でも支払いは可能で、どんな病気でも治療方法があるだろう、というのがわたしの考えです。

今明らかにしたことに光を当て、家庭の生活苦をはじめ、重要な問題とその解決策に焦点を絞っていきたいと思います。

わたしたちは人間です。喜びはどうぞ独り占めしてください。でも、苦しみは共有して荷を軽くしましょう。もっと言えば、解決することで苦しみをなくしてしまえばいいのです。解決できないことなどこの世にはありません。泣く代わりに苦しみをどう乗り越えるか、という点を見つめましょう。『処方箋のない苦しみなどない』と、親愛なる預言者ムハンマド[彼の上に平安あれ]も言っているではありませんか。

あなたがそう信じているのなら、あなたには力があります。あなたの恋も愛も、なにものも邪魔しませんように。

あなたが望むなら成功します。あなたの情熱も幸福もどんな困難であっても影をさしませんように。

あなたの、あなたの家族の、そしてあなたの周りの人たちの問題を解決することは考えられているほど難しいことではありません。

あなたとあなたの妻や夫に、愛の花が咲き乱れる「愛の宮殿」に向かって走ってくるよう、わたしは呼びかけています。目がくらむほどの光の饗宴があなたを迎え入れるでしょう。その長い道のりを駆けぬけると、ちょっとばかり苦労して疲労を感じるかもしれません。

それでもあなたは、愛や恋を新たに発見できるのです。





『チキ・チキ・バン・バン』 Chitty Chitty Bang Bang

あけましておめでとうございます。新しい年の1月に入りまして、元旦以降初めての祝日が成人の日です。「国民の祝日に関する法律」によれば、成人の日の意味は「大人になったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を祝い励ます」だそうです。ですが、成人の日に成人式をしたからといって大人になるわけでもなく、式自体は「同窓会」のようなものになってしまっています。自分が当事者だった数年前は、子供の頃から住んでいたところから大学で一人暮らしをしていたところに住民票を移動していたこともあり、全く知人がいない式に行く気がせず、残念ながら何もしませんでした。「大人になる」とは一体どういうことなのでしょう。

私が高校生のとき、小論文の授業で「大人になる」ことについて色々意見を交わしたことがあります。その授業の先生は、大人になる事を「あきらめる事を知る」「ものを忘れるようになる」と、なんとなくネガティブなように言っていました。とてもアツイ先生だったので、色々思うところがあったのでしょうか。自分の気持ちの整理が出来るようになる、またはしなくてはならないようになる、といったところでしょうか。その当時、私が子供ながらに大人と子供で違ってくることで最も恐れていたのが「想像力を失うこと」でした。ネバーランドには子供しか行かないように、子供のころの想像力はすばらしいものです。どんな世界にもすぐに行くことが出来ますし、いろいろな事を考え付くものです。時には相手のことを思いやったりするという「想像力」を発揮できずに喧嘩やいじめが起こるかもしれないですが…。



それはさておき、子供に色々な世界について想像力豊かに面白い話をしてくれる大人、そういうものに私はとてもあこがれていました。それは例えばルイス・キャロルであったり、ミヒヤエル・エンデであったり、さまざまなファンタジーの語り手（作者）たちでもありました。そういう、「夢ある大人」の出てくる映画が『チキ・チキ・バン・バン』です。

夢想家で発明家の男やもめであるポッツは、解体炉へ放りこまれようとしていたおんぼろ自動車のチキ・チキ・バン・バンをもらいうけ、手を加えて走らせることに成功した。ある日、この車に2人の子供を乗せて海辺に遊びに出かけた。途中、貴族の令嬢であるとルーリーと出会い、一緒に海に行くことに。浜辺で水平線に現れた船を見たポッツは、あれは実は海賊男爵の船なんだ、と話を始める。すると、彼らの周囲には潮が満ち、その船は本当に海賊船であった。襲われそうになった4人はチキ・チキ・バン・バン号に逃げ込む。すると、その車はホバークラフトに早代わりし、無事海から脱出できた。それをみた男爵はこの車をほしがり、ポッツのお父さんをポッツと勘違いして誘拐してしまう。ポッツと子供たち、

トルーリーはおじいさんを助けに男爵の城へ向かう…。

コミカルで荒唐無稽なお話ですが、「007シリーズ」のイアン・フレミングが原作だと知ると、納得です。しかも、脚本を書いた一人が『夢のチョコレート工場』（「チャーリーとチョコレート工場」の原作）のロアルド・ダールですから、子供にとって面白くないわけがありません。「夢ある大人」の語る「夢ある話」です。この話を見たことが無くてもおそらく知っているであろう「チキ・チキ・バン・バン」という歌などにのせて、カラフルなミュージカルが展開されていきます。

子供たちのために色々なお話をすることの出来る人、想像力を豊かにすることの出来る大人になりたい、そういう大人がいい、と思っている私ですが、この映画を見てもわかるとおり、「夢ある大人」であるポッツは傍からみればものすごく変な人です。「アヤシイ人」であったり「社会から脱落した人」であったりします。実際の世界ではちょっと距離を置きたいような気がする人ですが、ポッツは変な人ではあるけれども、あたたかな良い人です。お金はあまりないけれど、家族想いでもあります。どんなに困っていても、楽しそうに暮らしています。…つきつめて考えると、私の理想とする大人は「豊かな想像力のある大人」というより「何があっても楽しそうに暮らせる大人」なんじゃないかという気がします（そのポジティブさの背景には、もちろん想像力もあるわけなのですが）。それは、あきらめも悪く思い出を忘れることもしない往生際の悪い人で、大人になりきれていない人なのかもしれません。そんな人になりたい、というのはどうかとも思うのですが、いい意味で周りの人も楽しく、幸せにさせられる人になれたらいいなあと思います。

なんだか、「大人になる」ということからずいぶん離れたところに話が来てしまいました。私が「こうなりたい」と思う大人になるのも、まだまだ先のようにです。ですが、一年の計は元旦にあり！今年はこの映画を見て、気持ちを新たに「大人」への第一歩を踏み出していきたいと思います。

『チキ・チキ・バン・バン』 1968年 イギリス 145分

監督：ケン・ヒューズ

原作：イアン・フレミング 脚本：ケン・ヒューズ／ロアルド・ダール

出演：ディック・ヴァン・ダイク（ポッツ）／サリー・アン・ハウズ（トルーリー）／ライオネル・ジェフリーズ（ポッツのお父さん） ほか





動物たちの感覚の奇跡

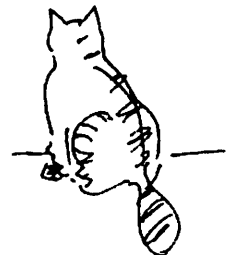
動物たちは、実にすばらしい被造物である。彼らは皆独自の形や大きさや色や特性を持つだけでなく、信じられないような感覚機能を持っているのである。それらは彼らがこの世界で生き延び、コミュニケーションをとることを可能にし、人間のそれとはとても異なっている。何十万種もの動物が存在するが、それらはそれぞれに異なる視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚を持つ。全ての動物や昆虫類は、それぞれのサイズ、特性、生き抜くための習慣にふさわしい感覚機能を持つ。この記事では、この素晴らしい動物たちの感覚機能について触れてみたい。

視覚

私たちが周囲を見る時、私たちはいくつかの色の濃淡と、数十万のイメージを認識する。人類といくつかの動物においては、光が眼に入り、電気信号が神経を通して脳に伝えられることによってものを見ることが可能になる。これらの信号がイメージや映像に変換され、私たちが『ものを見る』のである。全ての被造物は、それぞれ異なった形、色、鮮明さ、距離感で、ものを見る。

イヌは、狩猟の際の必要性から、人間の2倍の視力を持つ。さらに、イヌは、動いているものを目で追い、方角、スピード、軌道を把握する特殊な能力を持つ。これにより、例えば、イヌは、動いている物体がどこに落ちてくるか、どういった角度で落ちてくるかを把握するという驚くべき能力を持つ。イヌが、ボールやフリスビーを見事にキャッチできるのはこのためである。彼らはそれらが落ちてくる地点を正確に把握しているのだ。

ネコの顔は、世界の動物の中でも珍しい例として、二つの目の間がフラットである。このことは、それらが共に動くことを可能にする。その結果、ネコははっきりとした、三次元の視野を持つ。それにより、彼らは飛び上がる前に、距離を、この上ない正確さで判断できるのだ。



ウサギは、方向を変えることなく、全方向（前も後ろも）を視野に入れることができる珍しい動物の一つである。彼らの目は頭の両サイドにあり、それによって全方向を見ることができる。ウサギはしばしば、肉食動物の餌食となり、常に危険の中にある。だから彼らの目は、彼らを敵から救うための最善の場所についているのである。



人類や野生動物は二種類の視細胞を持つ。錐体（すいたい）と杆体（かんたい）である。錐体は光の中で、黒や白、灰色を含めて色を認知する。杆体は、わずかな光の中でもはっきりと形を認識するが、色は認知しない。夜行動物には錐体よりも杆体が多く存在し、夜でもくっきりした視野を持つことができる。ただし色としては、灰色の濃淡のみとなる。さらに、彼らは目の後ろに、タペータム（哺乳類の眼球の脈絡膜の層）と呼ばれる層を持つ。これは光が当たると、鏡のように作用する。杆体が最初の段階で光を認知できなかった時、タペータムは杆体に光を反射させ、杆体が光を拾い物体を見る第2の機会を与えるのだ。薄明かりの中で動物たちの目を光らせているのもこのタペータムである。

フクロウの目は、光を感じる点において非常に敏感である。ある研究では、あるフクロウが1000フィート（3600メートル）離れた光を追うことができたと報告されている。

動物たちは人間と似たような形で色を認識すると信じられているが、科学者たちはハチや昆虫などがどのように色を認識するのかをまだ明確にしていない。科学者たちは、ハチや鳥や昆虫たちなどは、人間が見ることのできない色を見ると信じている。紫外線である。赤色や青色や黄色に加えて、花々はしばしば、紫外線の模様を持ち、虫たちに蜜や花粉のありかを教えている。これによって虫たちが蜜や花粉を容易に見つけられるようになるのだ。

しかし、全ての動物が二つの目を持っているわけではない。例えばハエトリグモは、八つの目を持つ。前に大きな目が二つあり、頭頂部に六つの小さな目がある。前の二つの目はよく発達しており、二つの双眼鏡のように働く。それによってクモは、30センチ向こうの物体をはっきりと見ることができる。小さな目はセカンドアイと呼ばれるものである。これらは光を反射する層を持ち、薄明かりの中でのものを見るのを助けるのだ。これらは、クモが飛び上がる際、目標物との距離を知らせるものでもある。

聴覚

他の感覚と同じように、人間と動物たちは異なるレベルの聴覚を持つ。多くの動物は二つだけ耳を持ち、それらは私たち皆に、音がどの方向から来るのか知るうえで助けとなる。両サイドの耳に、音はわずかな差をもって到達する。それによって、片方の耳ではわずかだが音が大きく聞かれる。音の大きさの差と、音の到達時間の差が、音源の位置を知る計器となるのだ。音は、ヘルツという単位によって表される。1ヘルツは1秒間に1回の周波数と定義される。普通の聴覚を持つ成長した人間は、20ヘルツから2万ヘルツの範囲の音を聴くことができる。オオカミは、8万ヘルツまでの音を聞くことができる。イヌは3万5千ヘルツまで聞くことができる。



ネコは、驚くべき聴覚を持ち、50ヘルツから10万ヘルツまでの音を聞くことができる。さらに、ネコの耳には、耳を180度動かせる筋肉がある。これによって、ネコは頭を動かすことなく、周囲の音

2006年1月 やすらぎ _____ 21

を聞くことができる。

フクロウの耳は、左右の耳が違う高さについている。この高さの違いによって、フクロウは、音が高いところから聞こえるのか、地面の方から聞こえるのか判断することができる。もう一つの興味深い点は、多くのフクロウが平面的でハート型の顔を持っていることである。この形の顔は、ごく小さな音を反響させる働きを持つ。この二つの特性によって、フクロウは偉大な狩人となり、彼らは暗闇でも狩を行なえるのである。

全ての動物と昆虫が耳を持つわけではない。一部のものは頭や、それ以外の場所に穴を持つ。また一部のものには鼓膜を持つ。鳥や、昆虫や、魚などである。例えば魚の耳は、目の後ろの皮膚の下にある。これによって、魚は水の中の震動を、皮膚を通して感じるができる。一部の魚は、内部器官やヒレを動かすことによって震動を生じさせ、コミュニケーションをとったり、警告を与えたり、群れで一緒に泳ぐ際に利用したりする。

嗅覚

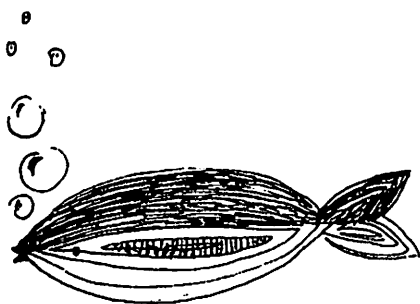
それぞれに異なる嗅覚の必要性を持つ動物たちは、それぞれに異なる嗅覚と鼻を持つ。その中で、ゾウの鼻はいろいろな意味で傑出している。ゾウの鼻と上唇は平均して136キロとなり、一度に1ガロンの水を、他の動物の背中に噴射することができる。この鼻は大きな木材を持ち上げるのに十分な力を持つ。

同時に、ゾウは、彼の領域内に攻撃者がいる時は、そのにおいをかぐために鼻を高く持ち上げる。また彼らは深い川を渡る際には、鼻を水面から突き出し、シュノーケルとして利用する。

イヌは、最高の嗅覚を持つ動物の一つである。獣医師であるヒューゴー・ヴェルブルッゲン博士と、イヌの訓練士M.D.ベアサル氏により書かれた「嗅覚」という本は、イヌがいかににおいをかぎ

わけることができるかを述べている。1グラムの酢酸が、10階建ての建物に噴射され、それが蒸発した場合、人間はそれをほんのわずかな時間、窓のところにしておいてかぐことができる。これに対し、イヌは、同じ量がフィラデルフィアのサイズの都市の中に噴霧された場合、300フィートの高さまでであれば、それをどこにいてもかぐことができる。この本はさらに、もし人間が、イヌの持つ嗅覚の10パーセントでも持つことができれば、私たちは全く異なる世界を体験することができるだろう、と述べている。

ラクダは、砂漠にすむ動物で、水分をためておくことができるという特別な特性と共に創造されているが、さらに、風が吹いた時には、砂やほこりが入らないように鼻の穴を閉じるという能力も持っている。



アリもまた、私を魅する存在である。この小さな被造物は、においを用いて、相手が自分のコロニーのアリか、そうでないかを判断する。さらに、アリが死ぬと一定のにおいを発し、コロニーの仲間たちがそのアリを埋葬地に運ぶのである。科学者によって、この「死んだアリのにおい」に関する実験が行なわれた。彼らはこのにおいを健康なアリに付着させた。アリたちはこのアリを死んだと信じ、それが自分の巣に戻ろうと暴れているにも関わらず、そのアリを埋葬地に運んだのである。

味覚

味覚と嗅覚は化学的な感覚である。科学者は、動物たちが味を感じることができると考察し、動物たちが様々に異なる味覚を持つことを知っている。味覚は小さな味覚細胞によって形成される。これらの味覚細胞は、甘味、酸味、苦味、そして辛味を感じることができる。哺乳類は最も多くの味覚を持ち、鳥類が最も少なく、そして昆虫類はそれを持たない。しかしこれらの動物や昆虫類は、彼らが生き抜くために必要な、一定の食物の味を判断する特殊な味覚細胞を持っている。



触覚

全ての動物が触角を持っている。多くの科学者が、触覚が最も重要な感覚であると信じている。盲目の人、視覚障害の人は、点字を読むために触覚に頼る。動物や昆虫の多くは、触覚という備え付けられたアンテナを持つ。他の存在との過度の接触を避け、食物や周囲の状況を探るためである。

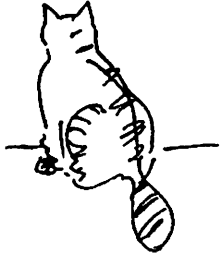
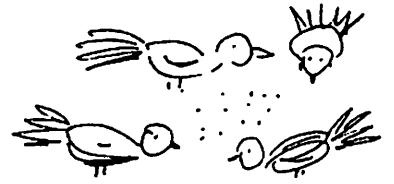
アオバエは、風の状況が飛ぶのにふさわしいかを探るために、このアンテナを用いる。風があまりにも強い場合、彼らは風が収まるまで待つのである。重要な点は、この昆虫は強い風の中では飛ぶのに耐えられない、ということである。

多くの動物や昆虫類は、振動への触覚に頼っている。例えば、クモは、獲物がかかったり、他のクモが侵入してきたりした際、その巣が揺れることでそれを察知する。クモは振動を、その長い足を巣の端においておくことで感じることができる。また、クモは巣に戻ってきた時、巣を揺らし、どのように揺れるか確かめる。それによって、何かが引っかかったかどうかを確かめるのだ。



さらに興味深いことは、一部の動物は、人間と同じように愛情を求めたり、表現したりする際にも触覚を用いるという点である。ネコ、イヌ、サル、アザラシ、ライオンなどが、触覚を通して愛情を表現する動物の例の一部である。ネコの飼い主として、それが触れることによって愛情を理解する様子を目にするのは非常に興味深いことである。

ネコを飼っている人、ネコに接する機会のある人から、しばしば「なぜネコはゴロゴロのどを鳴らすのか」とたずねられる。科学者たちは、この『のど鳴らし』は、胸部の大量の血流と気道内の空気によって発生する、としている。ネコを飼っている人なら、この時の振動を感じることもある。ネコは、幸せである時、あるいは愛情が表現されている時にのどを鳴らす。しかしネコののど慣らしは、もっと重要な意味も持



つ。ネコの子供は、他の動物たちと異なり、生まれた時は目も見えず、耳も聞こえない。母ネコののど慣らしの振動は、子ネコが感じることのできるサインなのだ。それは子ネコたちに、母ネコの近くにいることを知らせ、また子ネコたちののど慣らしは、母ネコに、彼らがミルクを飲んで元気であることを知らせるのである。これは奇跡的な、生存へのメカニズムなのだ。





今更ですが「アンネより」のアンネというのは名前ではなく、トルコ語でお母さんという単語です。このコーナーを書き始めたときは、周りが母親としてのあり方を常に話し合っていて、私もがんばらねばと意気込んでいたときでもありました。それでこのネーミングにしたのですが、あれから何年もの間、母親としてどうあるべきかという目標もないままただだと時が流れてしまいました(苦笑)。

上の子はもうすぐ4歳。自分自身のありかたはともかく、子供の教育者的面ではのんきにしている場合ではなくなってきました。今まで子供に教えた事と言えば、食べる前に何を言うべきか、終わったら感謝することや、全てを創造したのは?、くらいのことでしたし今のうちはこれで十分と思っていました。

ところが先日、ある友達のお誘いで子供たちのための勉強会をしようということになり行ってみると、手作りかるたがあったり、文字の教材があったりで、友達もさることながらそれを作った方々の教育熱心さに驚かされました。世の中こんなにがんばってるお母さん方がいるんだな—という感じです。

それらを見ていたら私もそろそろ子供にクルアーンの節とか礼拝なども教えなければならない、ある意味あきらめたいなものを感じました。今までは自分の中で、子供にはまず精神面の教育をしようという頭がありました。具体的には、アッラーの存在であるとか、アッラーに感謝する気持ちとか、礼儀正しさを学ぶといったハディース的なことです。クルアーン読みとかフィクフ(法学)とか学問的なことは私も良く知らないし、あまり教えなくとも自分で後から学んでくれるだろうぐらいにしか考えていませんでした。けれどよくよく考えてみるとやはりクルアーンなどは小さい頃学んだほうがより多く暗記できるでしょうし、これらをあとまわしにしていくと学ぶチャンスを逃してしまいかねません。

当たり前のことですが、自分に教える能力がなくともいろいろな面でバランスのとれた教育をする努力をしていくのが一番いいのかなと感じました。礼儀正しい人間でも礼拝の仕方がわからないのでは意味がないですし、その逆も然りです。書いていて思い出しましたが、これが中庸の精神から成り立つイスラームの教えでしたね。ただそれを達成するための過程として具体的に何をするかといった内容は、子供に一番近い母親が模索していかなければならないと思いますし、これが母親としての役目なのかなと思います。アッラーの助けを得つつ、預言者も継続するのは良いことといわれていますし、子供といっしょに細く長くイスラームを学んでいけたらいいなとおもっています。





ある年の成人式の日、私は友達と、その日までが期限の「初詣一日乗り放題きっぷ」を使い、奈良の神社仏閣を見て回ったことがあります。花の長谷寺、橿原神宮、薬師寺、生駒山、東大寺、興福寺、そして締めくくりは若草山の山焼きを見ました。非常にハードな一日でしたが、良い思い出です。ついでに、当時大学で、「宗教史地図 仏教」という講義を受けていたのですが、その講義のレポートにも使いました。

さて今回は、「ちょっと大人になる？」をテーマに2冊ご紹介しようと思います。筆者としては、題名（邦訳名）がおおいに気になる2冊でもあります。

一冊目は、『ヒーローなんてぶっとばせ』です。翻訳というのは、とても難しいお仕事だと思うし、題名を訳すのはいろいろと迷うこともあると思います。でも、この題名にはちょっと「ええ～」とってしまいました。題名及び表紙と、中身のギャップが激しいのです。この作者の他の作品、『クレージーマギーの伝説』などと同じく、この作品も鋭く、シビアです。

舞台はアメリカ、主人公は図体のでかい、勢いの良いこわいものなしの男の子、あだ名はクラッシュです。その子の価値観は、大きいほうが良い、たくさんのほうが良い、強いほうが良い、値段の高いほうが良い・・・終始その調子です。どこにでもいそうな普通の子どもとも言えます。その子が、ある男の子と出会います。ペン・ウェブはクエーカー教徒。全くテンションの違う二人、ほとんどクラッシュがいじめているような状態ですが、あまりにも違いが大きすぎるため、クラッシュは「あいつは気に入らない」と言いながらもウェブを常に意識してしまいます。

そんなクラッシュ、実は両親とも働くことに忙しく、家族そろってご飯が食べられることすらめったにありません。そして実は妹思いで、さらに、「スクーター」というおじいちゃんが大好きです。彼の強がったような心の均衡が、一気に崩れるのは、これらの関係が急変する場面からです。スクーターが、脳卒中で倒れてしまうのです。

スクーターが死んでしまうことを恐れ、われを忘れて買い物に走ったり、「スクーターが作ったのじゃなきゃいやだ！」と駄々をこねる妹に手作りケーキを作ってあげたり、他の子たち（首謀者はマイク）に「肉を食え」といじめられるペンを助けたり、峠を越えても「アバイ」としか発語できなくなったスクーターへの心配を抱え込みながら、無神経なマイクについに怒りを爆発させたりします。あんなにこわいもの知らずだった彼が、手をふるわせ、泣きそうになりながら。

この物語の面白いところは、クラッシュの一人称で書かれているところです。最初のほうの、彼の価値観も押しが強すぎる行動も、「おれは・・・してやった。」と恥も外聞もなくはっきり書かれています。自分と違う考えの人間を外から見てあきれられる様子、内心困惑する様子がよく分かります。

マイクは、正しいのだろうか。おれって、いい子ぶってるのだろうか。どうしてあいつらとっしょにたのしまないのだろうか。どうして水鉄砲をもって、やっつけないのだろうか。ほんとうは、水鉄砲をにぎりたくてうずうずしていた。ただ、やっつけたいのはウェッブではなくて、むしろマイクのほうだった。それって、つまり、いい子ぶっている証拠だろうか。ほかのやつらにも、そう見えるのだろうか。

おれは、弾丸クーガンだ。こわい物知らずの、クラッシュさまだ。でも、その名前が、とつぜん自分にふさわしくないような気がしてきた。今までは、おれはおれの名前らしい行動をしてきた。なのに、なんだかちぐはぐになってしまった感じがする。名前だけが一人歩きしているような……。なんだか、そら恐ろしい。(p 211-212)

現実をズバツと描き出しながら、さわやかに読ませるスピネッリの本、他のものもぜひどうぞ。

2冊目は、『やったね！ジュリアス君』です。もうここまでくると、仕方ありません。原題が“*You're a Brave Man, Julius Zimmerman*”なので全くもって仕方ありません。中身がとてもいいので、ぜひ、特に中学生の人に読んでもらいたい作品なのですが、この題名で果たして手にとってもらえるのか、無用とは思いつつ心配しているのであります。

12歳の男の子ジュリアスが、母親のすすめにより、午前中はフランス語の講義、午後はベビーシッターという、ヘビーな夏休みを過ごすことになるというお話です。

はっきり言って、ドジばかりしてしまうのです。それも、もっと小さい年代の子のような、スカッとしたドジではなく、ぐんにやり、うんざりのドジです。午前中はフランス語の先生、マダム・カウペルを相手に、午後はベビーシッター先の男の子、エジソンを相手に。母親ともうまくいきません。

しかしこの作品で際立っていると私が思うのは、ジュリアスの「思いやり」が深いという個性です。読んでいて、すごいなあと思うくらい優しいし相手を思いやるのですが、肝心の相手がそれを分かっていたり、受け止める余裕、あるいはそれに対する感謝を表現する余裕がなかったりして、全然報われないのです。それでも全く相手を責めたりせず、自分に冷ややかな視線を向け、さらに思いやるすごさです。小さな子どもの世話は、確かに向いていると思いました。

「ねえ」ジュリアスはやさしくいった。大きな失望をした人がいて、その人は一度も失望を経験したことのない人だったら、どう声をかければいいのか。思いつくセリフは、どれもむなしく失礼なことばかり。それでもなにかいわなければ。

「だいじょうぶさ」ジュリアスはいった。むなしい、失礼なことばを。

オクタビアは、くるっとふりむいた。「だいじょうぶじゃないわよ！」すくなくともオクタビアは敗北したというより、怒っていた。

「じゃいいよ、だいじょうぶじゃないさ」ふとオクタビアと話していて、なぜかエジソンと話してい

るような気になった。(p 118-119)

それから、自分が切羽詰った状況になっても、冷静に自分を笑えるセンスは共感できます。私が一番好きな場面はここです。

「こんにちは」ジュリアスは、このことばを用意していてよかったと思った。

「こんにちは」オクタビアがいった。「コマン サ ヴァ？」

ジュリアスは、ぼんぼんと返した。「トレビアン、メルシー、エ トワ？」オクタビア・オールドリッジとフランス語でおしゃべり

していると、自分がどう見えるかということばが頭にうかんだ。それは、デボネール。

つまり、バカ、ということばだ。(p 74-75)

最後は、確かにまさしく「やったね！」なできごとが同時にたくさん起こります。不器用だけど、思いやりの深い、彼らしいできごとです。題名のインパクトにくじけずに、ぜひ一度どうぞ。

今回ご紹介した本。(筆者の手元にある版。)

『ヒーローなんてぶっとばせ』(原題 CRASH) ジェリー・スピネッリ作 菊島伊久栄訳 偕成社

『やったね!ジュリアス君』(原題 You're a Brave Man,Julius Zinmmerman)クラウディア・ミルズ作

はら るい訳 玉村敬子絵



購読価格(郵送料込み) バックナンバーは、1部 200円(日本以外は1部 250円)

国内: 1ヶ月 250円、 6ヶ月 1300円、 1年 2500円

国外: 1ヶ月 300円、 6ヶ月 1600円、 1年 3000円

郵便振替口座番号: 00140-4-574489 口座名義: Yasuragi

三井住友銀行 店番号: 005(春日部) 口座番号: 7315959 口座名義: Yasuragi

皆様のご意見、ご感想、ご質問をこちらのコーナーまで心よりお待ちしております

<http://www.yasuragiweb.com> info@yasuragiweb.com yasuragi_nihon@hotmail.com

〒168-0074 東京都杉並区上高井戸 3-10-6, 404

「やすらぎ」編集部